

2019年 4月 子育てワンポイント

テーマ「 群れて遊ぶ 」

2歳くらいになると、周囲の子どもへの関心・興味が強くなり、何でも真似したり、共鳴したりします。

例えば

一人が走り出せば他の子ども走り出す！

一人が大きな声を出せば他の子ども大きな声を出す！

ボールで遊び始めれば、他の子どもボールで遊び始める！

他の子が行う行動が楽しく見えてくる時期です。友達と関わり合う第一歩ですので、触れ合う加減が分からず、自我のぶつかり合いなどから、時には「おもちゃの取り合い」が見られます。おもちゃがいっぱいあっても「同じおもちゃ」が良いのです。

このような経験は否定的にとらえられやすいのですが、社会性の育ちにとっては、非常に重要な遊びなのです。

そして、皆と一緒に遊びを楽しみたいという、コミュニケーションの表れでもあります。そして、「一緒に遊ぶあそび」を喜ぶようになります。



ちょうどこの頃、反抗期も始まり、思いを強く主張するため、けんかが起こったりしますが、繰り返し経験する中で、相手にも気持ちがあることに気づいていきます。泣いている子を見て、そっと頭をなでてあげたり、おもちゃが貸せるようになったり、相手を思いやる心がはぐくまれ、会話をして言葉を獲得していきながら、心も成長しているのです。

幼児期は、相手のことを考えて行動できるようになることは容易なことではありません。しかし、**群れて遊ぶ**ことにより、楽しさを共有・共感できる仲間ができ始めると、けんかをしながらも、一緒にいたいという思いがふくらんでいき、次第に自制心も養われていくのです。大人もやってあげる遊びから、仲間の一人となって遊ぶを楽しむことで、子どもたちの遊びに対する欲求も発散され、育ち合っていけると思います。群れの遊びは、心身ともに成長し合い、就学する上での基盤作りに大切な役割を担っているのです。